

松下幸之助歴史館 松下幸之助に出逢える場所



道

自分には
自分に与えられた道がある
広い時もある
せまい時もある
のぼりもあれば くだりもある
思案にあまる時もあるだろう
しかし、心を定め
希望をもって歩むならば
必ず道はひらけてくる
深い喜びも
そこから生まれてくる

松下幸之助



創業の家
1918年3月、松下電器器具製作所として創業した当時の作業場を再現。高い志に満ちた雰囲気を感じていただけます。



ライブラリー
松下幸之助の言葉をより深く読み解いたり、パナソニックの膨大な保存記録データなどをご覧いただけます。

ミュージアムショップ

松下幸之助関連の著書やグッズをお買い求めいただけます。



1933年竣工の第三次本店があったまさにその場所に、当時の趣を忠実に再現した建物を最新技術で新築復元。松下幸之助94年の生涯を“道”としてたどりながら、幾多の苦難を乗り越えるなかにも松下幸之助が見出した経営観や人生観を学ぶことができます。

1章 大阪で商人の礎を築くとともに、電気事業に目覚める

礎

1904年ー

9歳のときに親元を離れ、大阪の五代自転車店で奉公を始めた幸之助は、ここで挨拶の仕方や頭の下げ方など厳しくしつけられ、商売の基礎を学ぶ。

2章 松下電器器具製作所を開業する

創業

1918年ー

大開町(現在の大阪市福島区)に松下電器器具製作所を開業。考案した配線器具の「アタッチメントプラグ」などは、品質がよく価格も安かったため評判になる。

3章 産業人の真の使命を知り、事業家として会社の基礎を築く

命知

1932年ー

人間には精神的安心と物質的豊かさが必要であり、生産者の使命は物資を豊富にかつ廉価に生産提供することである、との思いに至る。

4章 戦後の混乱を目にし、人間本来の姿を探究する

苦境

1937年ー

戦争の痛手から再建を目指す幸之助は、これが人間本来の姿なのかという強い疑問を抱き、人間社会の意義について、さまざまな思いを巡らせる。

5章 アメリカで鮮烈な体験をし、世界的な観点からの経営を志す

飛躍

1951年ー

「日本にもこんな豊かな生活をもたらしたい」との決意を胸にアメリカ視察から帰国した幸之助は、日本における電化の普及を牽引していく。

6章 高度経済成長の行き過ぎを警告し、不況打開に動く

打開

1961年ー

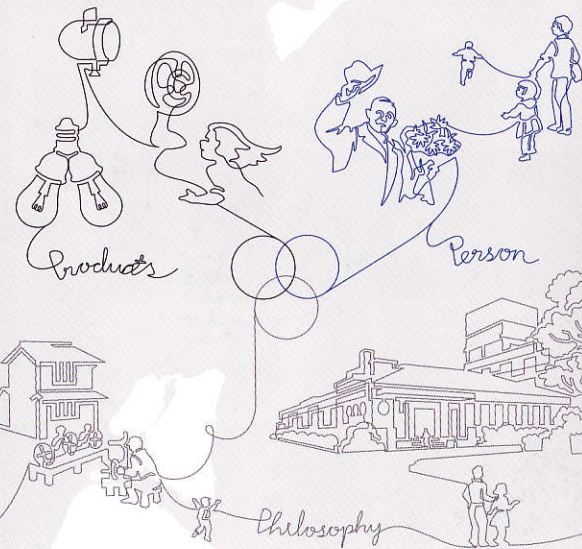
金融引き締めが強化され、販売会社にも経営悪化が目立ち始める。幸之助は、販売会社との懇談会(熱海会談)を開き、不況打開に全力で傾注していく。

7章 日本の未来を志向し、理想的な社会の実現に向けて動く

経世

1968年ー

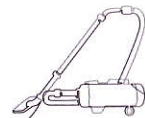
1973(昭和48)年、幸之助は会長の職を退任、相談役に就任。経営に一線を画した幸之助は、憂国の情を強くしていく。

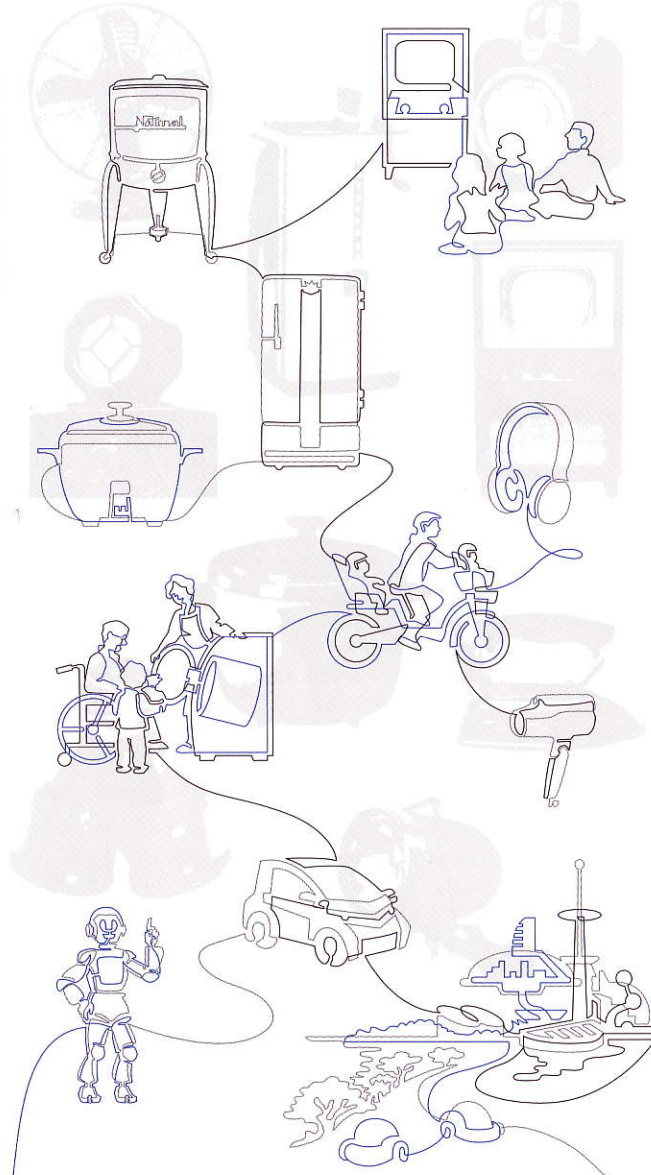


パナソニック ミュージアム



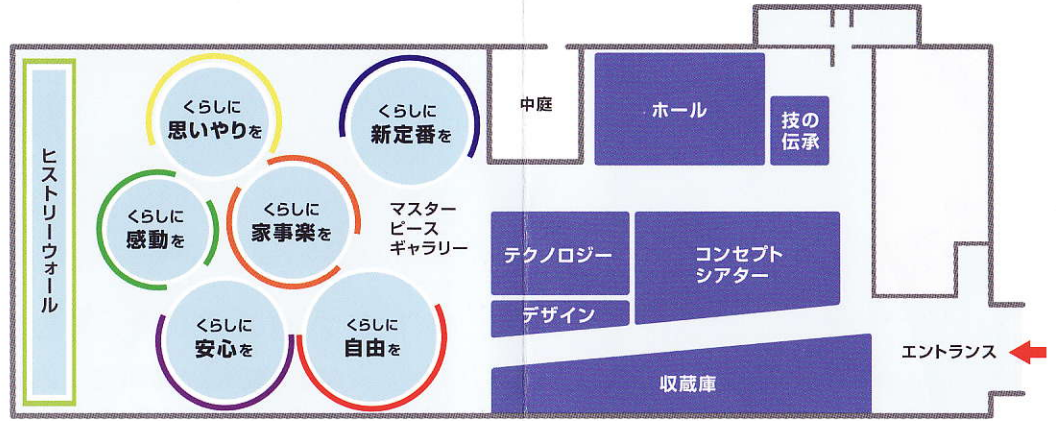
Person





パナソニック ミュージアム

松下幸之助歴史館 ものづくりリズム館
さくら^β広場



創業以来、家電製品を核に、常に新しいくらし文化を創造し続けてきたパナソニックならではの、“ものづくりスピリット”。圧倒的なボリュームを誇る歴代製品をご覧頂きながら、ものづくりに情熱を注いできた、数多の先人の熱き思いに触れて頂けます。



収納庫

テレビ、ラジオ、白物家電など、昔懐かしい家電製品約300点を展示。幸之助の思い、開発者の熱意…製品たちが、静かに、そして熱く物語ります。



マスターピースギャラリー

「家事楽」「思いやり」「感動」「自由」「安心」「新定番」の6つのテーマで、くらしを豊かにしてきたエポックな家電製品、約150点を展示しています。



ストーリーウォール

社会背景や時代のニーズに呼応したものづくりを行ってきた当社の歩みを、デザインとテクノロジーが融合した、幅16メートルの先進的な映像空間体験とともに楽しめます。

ミュージアムショップ

なつかしの家電製品や、ナショナル坊やをモチーフにしたオリジナルグッズなどをお買い求めいただけます。



Products

